

第十五日目

師 範：保元の乱では、武士は中央の争いに利用されただけでしたが、
次の平治の乱では、武士どうしが源氏と平氏に分かれて戦うことになりました。
この激しい戦いを見て「武者の世」になったと感想を書いている僧がいます。
どちらが勝ったでしょうか。
その次にだれが実権をにぎっていくかを考えればわかりますよね。
負けた側は、伊豆や木曾にこもって、再起をかけていたのですかね。



1159年 平治の乱がおこる。

ではこの年を覚えましょう。

コン太：勝ったのは平清盛の一族なのですね。



「清盛よ平治までいちいちご苦労さん」

11は「いちいち」と読んで、59は「ごく」と読みました。

師 範：平清盛は保元の乱のときには、源義朝とともに天皇側について、勝利しました。
その平清盛と源義朝の勝ち組みですが、今度は戦ったわけです。
清盛は平氏一族をまとめて、源氏を打ち倒して、権力をにぎりました。
そんなようすが表されている言葉ですね。
コン太君も、いちいちご苦労さん。

ペン太：ぼくは、保元の乱の3年後ということで覚えてしまおっと。



コン太：手を抜いたね。